

最近の埋蔵文化財センターのおしごと



ば ば だいら 馬場平遺跡

馬場平遺跡は、甲州市塩山上萩原地内にあり、多摩川水系の柳沢川左岸の河岸段丘上に位置しています。現地は柳沢峠を越えた山奥で、こんな所に遺跡があるのかと驚くほどです。当センターでは、今年の8月から発掘調査を行っており、縄文時代中期（約5000年前）の遺構・遺物が出土しています。

縄文時代中期の遺物包含層内から、土器と石器が多く

出土しており、特に、水晶を使用した石器が突出して多く、長さ5m、幅1.5m程の範囲から400点以上の水晶製の剥片・石核が発見されました。こうしたセットが多量に出土するのは珍しく、当時の人が、石器作りのための加工をしていた場所と考えられます。

このほか、土坑・ピットが約40基発見されています。住居跡は現在のところ発見されておらず、キャンプ地といった性格だったかも知れません。

今後も調査を継続して行きます。新たな発見があるかもしれませんので、続報をお待ちください。



しん まち まえ 新町前遺跡 整理作業



新町前遺跡は、市川三郷町市川大門で平成29年度に新たに見つかった平安時代から中世にかけての遺跡です。平成30年度に埋蔵文化財センターが発掘調査をおこない、50軒におよぶ平安時代の竪穴建物跡や集落内を流れる川跡などがみつかったほか、中世には水田や畑が広がっていたようすが明らかとなり、注目を集めました。

今年度は、発掘調査で記録した図面や写真、取り上げてきた出土遺物などの整理作業をおこない、調査成果の情報を正確に記録、保存、継承していくための「発掘調査報告書」の作成をおこなっています。現在は出土した遺物のかたちや特徴を正確に記録するための「実測図」の作成を進めています。

新町前遺跡の発掘調査報告書は、令和2年度に刊行予定です。

編集後記

埋蔵文化財センターでは、オリジナル缶バッジを作っています。デザインは埋蔵文化財センター職員が行いました。埋蔵文化財センター主催のイベントに参加すれば、キミもバッジをゲットできるかも。(い)

埋文やまなし61号

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲州市下曾根町923

☎ 055-266-3016

印刷 株式会社 峡南堂印刷所

素晴らしい
郷土やまなしの
埋蔵文化財を
子どもたちに伝えたい

学 校 支 援 特 集



県指定文化財
甲州市安道寺遺跡 Photo by T.Ogawa
(山梨県立考古博物館蔵)

八ヶ岳を中心とした中部高地・山梨などの縄文土器や土偶は、とても芸術性が高く、貴重であると文化庁の「日本遺産」(星降る中部高地の縄文世界)として認定されています。

中部高地・山梨などで、独自の縄文芸術が花開いたのは、以下のような理由があります。

- ①縄文時代中期はクリやドングリなどの落葉広葉樹に覆われ、鹿やイノシシなどのさまざまな動物が数多く住む恵み豊かな地域でした。
- ②八ヶ岳北麓には本州最大の黒曜石(天然のガラス)の原産地遺跡があり、縄文人達はそれを、弓矢の矢じりなどのさまざまな道具に活用しました。黒曜石は全国に広がり東西のネットワークができました。
- ③主食であるクリやドングリがたくさん採れ、シカやイノシシなどの狩猟が効率的にできたため、縄文時代中頃の中部高地・山梨などには、多くの縄文人を養うことができる豊かさがあり、日本列島の中でも屈指の人口密集地となって、華やかな縄文土器やユニークな土偶など、独自の縄文芸術が生み出されました。

このような山梨の縄文芸術がとても素晴らしいということ、児童・生徒・子どもたちに知っていただき、郷土山梨に誇りを持ち、郷土愛を育てていただきたいと思います。

埋蔵文化財センターでは、次ページのような学校支援事業を行っておりますので、是非ご活用ください。
※なお、自治会・サークルなどでお集まりの皆様には、「県政出張講座」という形で講師を派遣する事業もあります。

山梨県埋蔵文化財センターが提供する 児童・生徒に「郷土やまなしの埋蔵文化財」を理解し

出前支援事業

埋蔵文化財センター職員が講師として授業を支援する事業です。次の4つのメニューがあります。

①土器づくり体験

山梨県は縄文時代の遺跡がたくさんあり、世界に誇る芸術性の高い縄文土器の宝庫として知られています。縄文土器の発明は、人々の生活に大きな変化をもたらしました。特に、土器を火の中に置いて食べ物を煮るということは、食事のメニューを豊富にし、季節を通じて同じ場所に住むという習慣の第一歩になりました。子どもたちと共に、**本物の土器**を観察しながら土器づくりを行います。

本物と同じ作り方で作り、本物と同じ文様をつけることなどで、子どもたちに縄文人の心に思いをさせてもらいます。**粘土練り**、**土器成形**・**文様つけ**、**土器焼き**の3つの工程があり、特に広場で、巨大な薪で土器を焼成する工程は子供たちの心に強く残ることになると思います。



土器成形



土器焼き

②火起こし体験

マッチ・ライター・ガスレンジなどで簡単に火を起こすことができる現在の生活ですが、電化製品やIH調理器の普及などによって、子どもたちが、直接、火に接する機会が全くなくなってきているとも言われています。

昔むかしの人たちにとって火は、食物を調理し、体を温め、夜には猛獣から守ってくれる大切なものでした。そんな大切な火をどのようにして大昔の人は手に入れていたのでしょうか。

子どもたちに、火を起こすための各方法を体験してもらうことで、火を起こすことの大変さを実感してもらいます。実際に火を起こすことができた感動は、長く子どもたちの心に残ることになるでしょう。

- もみきり法 → 火きり棒を両手にはさみ、もむように回転させて摩擦熱を起こし発火させる方法
- 火打ち法 → 石と鉄をぶつけた時に出る火花を利用して火を起こす方法
- 弓ぎり法 → 火きり棒にひもを巻き付けた弓を前後して棒を回転させて発火させる方法 (右の写真)



火起こし

考古資料貸出事業

考古資料貸出事業とは、各学校の教諭が郷土やまなしの歴史授業を行う場合に、山梨県立考古博物館が所蔵している**本物**の考古資料の貸出を行うことで、学校教育を支援しようとするものです。

本物を教材として使用することで、児童生徒の興味・関心が高まり、実感を伴う能動的な学習が可能になると思いますので、是非ご活用ください。

貸出資料には、**縄文土器学習キット**、**弥生土器学習キット**、**石器学習キット**などの学習したい内容に応じた数々キットを用意しており、そのほかにも約400点の土器・石器・金属製品(複製品)等があります。どんなご要望にもできる限り対応しますのでご相談ください。



考古資料貸出キット(弥生・古墳時代)

郷土愛を育んでもらうための学校支援メニュー

③勾玉づくり体験

勾玉は、「曲がった玉」を意味するとも言われ、先史・古代の日本における**装身具**のひとつです。

勾玉には不思議な力が宿ると信じられ、魔除けや邪気祓いなどの呪術的な意味で身に付けられたと考えられています。日本歴代の天皇が受け継いできた「三種の神器」のひとつにも勾玉があります。

埋蔵文化財センターで用意する「勾玉セット」を使って、比較的やわらかい石材を耐水の紙やすりで削り、勾玉のかたちに成形していきます。仕上げにはとても細かい紙やすりを使って光沢がでるほどに磨きます。穴にひもを通して完成です。

苦勞して作った勾玉は子どもたちにとって、災難や悪霊から身を守るお守りとして最高の宝物になることでしょう。



勾玉の解説



勾玉

④考古資料に触れる体験

子どもたちにとって、本物の考古資料に触れることは、遠い昔の人々の生活を直接感じることができる貴重な体験となります。

埋蔵文化財センターには、開所以来の発掘調査の中で発見された、様々な時代の膨大な量の考古資料が保管されています。縄文土器や弥生土器など、授業内容のご要望に合わせて学校にお持ちし、直接触れる体験をしていただけます。

小学生から大学生まで、幅広く対応できる体験をご用意しています。



考古資料に触れる



その他**歴史・考古学に関する内容**について、各種ご相談に対応することができますので、お問い合わせください。

職場体験学習事業

職場体験学習事業とは、個々の生徒さんの希望に応じて、考古学に関する職場体験の場として、山梨県立考古博物館及び山梨県埋蔵文化財センターで職場体験をしていただく事業です。

職場体験では、働くことの意義や大切さとともに、発掘調査作業に係る体験や出土した埋蔵文化財を取り扱うなど、様々な体験をしていただきます。

- 埋蔵文化財センターと職員の仕事について学ぶ
- 発掘調査で見つかった考古資料の整理作業
- 埋蔵文化財センターで行うイベントの準備など。



産記体験



接合体験